

# 日本漢方協会通信

H25年 8月

## 日漢協HP充実

### 日本漢方協会のホームページが充実しました

今年度から、池村国弘さんの努力により、ホームページが充実してきました。是非一度ご覧になっていただきたいと思ひます。

池村さんは「(合)みどり情報技術」を主催し、東京都の薬草園の仕事もなさっていらっしゃいます。薬草園の展示室のコンピューターによる季節ごとの園内の紹介を作った方でもあります。

7月28日の薬局製剤実習の風景も写真で解説されています。その写真の何枚かを紹介いたします。



1) 生薬を秤量し、混合末を調製します。トウニン(桃仁)は塊になりやすいので、少量ずつ混合し、篩過・粉碎を繰り返します。



講義の間に、実習室では各グループのリーダーとサブリーダーが器具や材料の準備を進めます。

日本漢方協会のホームページに、ご意見、訂正や皆様に紹介したい事などがありましたら、事務局にお知らせください。(ホームページへの掲載は役員会で決定させていただきます)

## 薬局製剤漢方の動向

昨年の8月に新210処方改正されました。それに伴い、「薬局製剤指針」の効能・効果や用法・用量が変更になりました。また日本薬局方の16局に続きその追補がなされています。それらを受けて薬局製剤の漢方の改訂が進められています。

- ①全ての経口漢方に対して、効能・効果に「体力」の「しぼり」が付けられました。
- ②年齢(小児のみ・成人のみ)による「服薬制限」が無くなりました。
- ③漢方処方大幅に増加いたします。
- ④新210処方が4回に渡って改正され、2回までの改訂で作業を進めています。
- ④5年に一度の「局方」改正と5年の間に2回の「追補」が行われていて、薬局製剤指針の改定に時間のずれができてしまっています。現在の改訂は16局にあわせて行われ、発布ぎりぎりの「局方の追補」まで、入れたいと思っています。

薬局製剤指針が公布されますと、各薬局では薬局製剤承認の削除(整理)と追加をしなければなりません。

日本薬剤師会では薬局製剤を行う薬局の「備え付ける書籍」である「薬局製剤業務指針」を発行しなければなりません。

また「漢方業務指針」「漢方業務指針の手引き」「作ってみよう薬局製剤」の改訂もしなくてはなりません。

日本漢方協会でも「実用漢方処方集」の210処方関係と薬局製剤関係の改訂が必要になってきます。

以上の作業は厚生労働大臣の「薬局製剤指針」の公布が行われなければできないことで、パブリックコメントは終了していますので、もうわずかな時間だと思われまます。

### パブコメを通過した追加品目

桂枝加黄耆湯 解勞散 加味四物湯 杞菊地黄丸 柴蘇飲 沢瀉湯 知柏地黄丸 中建中湯 当帰芍薬散可黄耆釣藤 当帰芍薬散加人參 排膿散及湯 八解散 味麦腎気丸 明朝飲 抑肝散加芍薬黄連 連珠飲 延年半夏湯 加味解毒湯 加味平胃散 蛇床子湯 蒸眼一方 椒梅湯 秦艽羌活湯 秦艽別甲湯